

越 讚 歌

えっちゅうさんか

社会での経験を積み重ねれば、また、他の地域の事情を知れば知るほど、思いを強くするので、人としての基本を培って貰った富山時代に受けた教育は、日本でも最高レベルのものであったのではないかと。

学力の涵養とか、体力の充実とか、そんな次元の話ではありません。もちろんそれも大きかったかもしれませんが、それ以上に、もっと人間の根本にかかわってくるような次元で、誇らしい教育を受けたように思うのです。どこがどのように素晴らしいものなのか、なかなか言葉で表現できずにいたのですが、一、二年前、ある新聞で「テスト中 監督なし」と見出しがついた記事を見つけ、ああ、これだったのだと得心がいきました。

記事は富山市の速星中学校に関するものでした。「信じ合う心を育む」という教育方針のもと、テスト中も先生方は監督として立ち会うことなく、学用品の無人販売も行われており、この伝統が五十年近く続いている、と。

この教育方針が速星中学校でうまく機能し続けているのは、その周辺の地域(富山全体)に、「信じ合うこと」が日常に溶け込んでいる空気があるからではないでしょうか。学校がいくらがんばっても、いったん学校の外へ出れば油断も隙もないというような環境で

誇りに思うこと

中野 香織



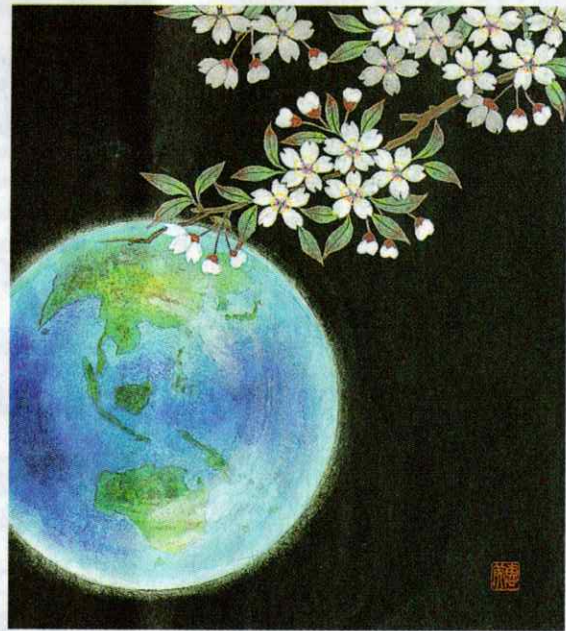
なかの・かおり エッセイスト・服飾史家。昭和三十七年生まれ、富山市呉羽小、呉羽中、富山中部高校を経て東京大を卒業し、同大学院総合文化研究科修了。英国ケンブリッジ大客員研究員などをを経て文筆活動に入り、新聞や雑誌に連載を多数執筆。昨年からは明治大国際日本学部特任教授。著書に「ダンディズムの系譜」(新潮選書)、「愛されるモード」(中央公論新社)など多数。横浜市在住。

は、こんな教育は夢のまた夢でしょう。例外がないとは言いい切れませんが、また、時代の変化とともに事情も多少異なってくるのかもしれないけれど、少なくとも私は、小中高の時代を通して、人を信じ、人に信じられることに責任をもつことは快いことである、ということ、を、理屈ぬきの体感として刻みこまれたように感じています。

■作り手の責任感

フリーランスのものの書きの仕事は、注文がくること、すなわち信用を受けることから始まります。仕事の依頼をいただいたら相手の希望を徹底的に聞き、テーマについてとことん調査して、一〇〇%満足していただけるものを書く。どんな小さな仕事であれ、手抜き

日常に「信じ合う」



「やぐら」 清河 恵美 (黒部市)

せずにひとつひとつの作業を辛抱強く繰り返すことが、私にとっての「人に信じられること」に責任をもつことであり、これを自然に快いと思えることで、なんとか仕事を続けることができている。多くの人が持ち家に住み、おいしい自然の恵みに不自由しない、豊かな富山の風土だからこそ可能だった教育のおかげ、と感謝しています。

同じ気質を、たとえば、富山のものづくりが二

飾史家。昭和三十七年生まれ、
を経て東京大を卒業し、同大大
リッジ大客員研究員などを経て
り、新聞や雑誌に連載を多数執
明治大国際日本学部特任教授。
「デイズムの系譜」（新潮選書）、
「ロード」（中央公論新社）など多
住。

■作り手の責任感

フリーランスのものの書きの仕事
に、注文がくること、すなわち信
事を受けることから始まります。
事の依頼をいただいたら相手の
望を徹底的に聞き、テーマにつ
てとことん調査して、一〇〇割
足していただけのものを書く。
んな小さな仕事であれ、手抜き

ユースになるときなどに感じま
す。大リーグのボンズ選手も愛用
するバットを作り続けている南砺
市の職人さん。世界で「禅なる時
計」と評価されたセイコーの「ソ
ヌリ」に組み込まれている「おり
ん」をつくった高岡市の仏具職人
さん。独特のスタイリッシュなデ
ザインの車で驚かせてくれる自動
車会社。ほかにも多くの例が挙げ
られると思うのですが、ジャンル
は異なれど、「信用を受けたら、
粘り強く工夫を重ねて、期待され
る以上のものをつくる」という作
り手の責任感と気概に、勝手に相
通じるものを感じとりたくなっ
てしまいます。

ただ、信じ、信じられることが

と違って取材を申し込んだとこ
ろ、「もうすでに新聞社に一回話
したので、何度も話したくない」
とあっさり断られてしまったこ
とがあります（苦笑）。PRなん
ぞに頼らない静かな自信にあふれ
た姿勢は大いに共感できますし、
そんなシャイで実直なところも富
山人の美点として大好きなところ
です。が、もしも、本気で富山全
体の経済や文化の活性化を望むな
らば、「黙っていても、信じ、信
じられることが通用するのは富山
の中だけ」と考えて、忍耐強く、
風通しよく、外に向かって成果を
発信し続けていく努力も必要にな
っているのではないか、と思っ
ています。

■心癒やされ

せずにひとつひとつの
作業を辛抱強く繰り返
すことが、私にとって
の「人に信じられるこ
とに責任をもつ」こと
であり、これを自然に
快いと思えることで、

当然の前提のような社会になじみ
すぎてしまうと、それが必ずしも
前提になっていない社会に出て行
くこととするとき、せつかくの美点
が短所になってしまうこともあります。

なんとか仕事を続ける
ことができている。
多くの人が持ち家に住
み、おいしい自然の恵
みに不自由しない、豊
かな富山の風土だから
こそ可能だった教育の
おかげ、と感謝してい
ます。

一例を挙げると、「黙っていて
も、わかる人はちゃんとわかって
くれるもんだ」という、すぐれた
富山の職人さんに見られがちな美
意識。実は二年ほど前、世界的成
功をおさめたある職人さんを全国
区の媒体で紹介させていただこう

「信じられる心」

両親も親戚も友人もいる富山に
は、年に数回、子供たちを連れて、
帰ります。いつに変わらぬ雄姿で
迎えてくれる立山連峰にはオーバ
ーヒートした心を洗われるような
気がしますし、海に山に温泉、美
食や文化やレジャーなど、あらゆる
楽しみを選択に困ることなく、
身近に享受できる環境には、心身
が癒やされます。虚栄の華が咲き
誇るようなファッションを通して
人間の普遍的な心理の働きを見つ
める、という仕事も私がよくいた
だく依頼のひとつですが、その眼
が曇らないのも、虚飾をとった、
人としてのシンプルな幸せの骨格
のようなものを再確認できる富山
という場所があるからこそ、とも
思っています。



文化

同じ気質を、たとえば、
富山のものづくりが二